

令和元年度 事業報告書

(平成31年4月1日～令和2年3月31日)

一般財団法人 東洋医学研究所

令和元年度については、当財団の事業目的ならびに当初の事業計画に基づき以下の通り、会議及び各事業を実施した。

記

I 公益目的支出計画

1. 公益目的支出計画実施状況

① 期首公益目的財産残額	72,954,915 円
② 公益目的収支差額	2,109,913 円
公益目的支出額	2,839,913 円
公益目的収入額	730,000 円
③ 期末公益目的財産残額	70,845,002 円
(当初計画との差異)	▲ 601,633 円
④ 公益目的支出計画の完了予定期末日	令和 45 年 3 月 31 日

※ 公益目的支出計画 (参考)

公益目的財産額 (当初)	81,586,635 円
公益目的収支差額見込額 (期間中平均)	1,690,000 円
公益目的支出計画の完了予定期末日	令和 45 年 3 月 31 日
公益目的支出計画実施期間	49 年間

2. 公益目的財産額・純資産額推移

(単位：円)

	公益目的財産額①	純資産額②	②—①	(医療+法人部門損益)
H26/3 末	81,586,635	81,586,635		
27/3	79,977,621	86,857,118	6,879,497	6,879,497
28/3	78,262,165	86,331,219	8,069,054	1,189,557
29/3	76,823,371	86,847,337	10,023,966	1,954,912
30/3	74,776,055	86,142,392	11,366,337	1,342,371
31/3	72,954,915	81,569,612	8,614,697	▲2,751,640
R2/3	70,845,002	76,138,989	5,293,987	▲3,320,710

※ 公益目的財産額を純資産額が下回らないことが必要

II 会議

1. 理事会

- (1) 第1回理事会 令和元年6月6日(木)
- (出欠) 出席：理事4名、監事1名
- (議事) 第1号議案 平成30年度事業報告書(案)の承認について
第2号議案 平成30年度決算報告書(案)の承認について
第3号議案 公益目的支出計画実施報告書(案)の承認について
第4号議案 令和元年度定時評議員会開催について
- (2) 第2回理事会 令和元年6月22日(土)
- (出欠) 出席：理事4名、監事1名
- (議事) 第1号議案 理事長の選出について
- (3) 第3回理事会 令和2年3月12日(木)
- (出欠) 出席：理事3名、監事1名 欠席：理事1名(田中滋城理事)
- (議事) 第1号議案 令和2年度事業計画(案)について
第2号議案 令和2年度予算(案)について
報告事項 令和元年度業績見通しについて

2. 評議員会

- (1) 第1回(定時)評議員会 令和元年6月22日(土)
- (出欠) 出席：評議員3名 欠席：なし
- (議事) 第1号議案 平成30年度事業報告書(案)の承認について
第2号議案 平成30年度決算報告書(案)の承認について
第3号議案 公益目的支出計画実施報告書(案)の承認について
第4号議案 任期満了に伴う理事の選任について
- (2) 第2回評議員会 令和2年3月12日(木)
- (出欠) 出席：評議員3名 欠席：なし
- (議事) 第1号議案 令和2年度事業計画(案)について
第2号議案 令和2年度予算(案)について
報告事項 令和元年度業績見通しについて

III 人事

令和元年6月22日任期満了に伴い、理事の選任を以下の通り行った。

- (就任) 理事(理事長) 櫻井 康司(重任)
理事 田淵 健一(重任)
理事 本間 生夫(重任)
理事 田中 滋城(重任)

IV 公益事業（研究・啓発部門）

1. 研究部門

当研究所の目的である東洋医術の医学的研究活動を、基礎及び臨床におけるテーマに基づき、鍼灸並びに柔道整復分野の所内研究グループにて実施し、その成果について学会・論文発表・学会誌投稿等を行った（計 34 題）。各グループの研究内容は以下の通り。

[鍼灸分野]

(1) 鍼灸臨床研究班（火曜班研究グループ）

（研究員：小島孝昭主任研究員、筒井宏史研究員、丸山広美研究員、中野陽子研究員、萱間洋平研究員、鈴木格研究員、伊丹章人研究員、橋本隆研究員）

※ 「身体局所における皮膚痛覚閾値の比較」に関して、対象部位を腰部・腎兪穴とし、温熱刺激による応答性の観察を行った。

学会での発表は以下の 1 題。

① 第 47 回日本頭痛学会総会【令和元年 11 月 15 日～16 日】

「ATG5 ノックアウトマウスにおける硬膜誘発性顔面部熱疼痛閾値の変化の検討」

（口頭発表：萱間研究員、慶應義塾大学医学部神経内科訪問研究員として）

(2) 東洋医学研究班（木曜班研究グループ）

（研究員：木戸正雄主任研究員、光澤弘研究員、水上祥典研究員、武藤厚子研究員）

※ 「脈診の研究」及び「経絡系統治療システム」を継続して研究。

論文発表、依頼講演等は以下の 9 題。

① 第 68 回全日本鍼灸学会学術大会（名古屋大会）【令和元年 5 月 11 日】

「脈診訓練法の開発（第 19 報）-「心虚証」「心包虚証」古典文献からの検証-」

（ポスター発表：水上研究員、木戸主任研究員、光澤研究員、武藤研究員）

② 第 68 回全日本鍼灸学会学術大会（名古屋大会）【令和元年 5 月 11 日】

「「天・地・人治療」の臨床応用（第 1 報）-六部定位脈診と天・地・人 大椎治療との関連について-」（ポスター発表：武藤研究員、木戸主任研究員、光澤研究員、水上研究員）

③ （一社）愛知県鍼灸マッサージ師会西三河支部公開講習会【令和元年 9 月 29 日】

「VAMFIT（経絡系統治療システム）の実際」

（依頼講演：木戸主任研究員）

④ 「週刊あはきワールド」【令和元年 10 月 2 日】

「〇〇はこう治す！私の鍼灸治療法とその症例 Fie66-1 腰痛はこう治す！（1）-天地人治療会の基本治療-」（寄稿記事：光澤研究員）

⑤ 「週刊あはきワールド」【令和元年 10 月 9 日】

「〇〇はこう治す！私の鍼灸治療法とその症例 Fie65-2 腰痛はこう治す！（2）-急性腰痛に本治法と VAMFIT を用いて著効を得た症例-」（寄稿記事：光澤研究員）

⑥ （一社）神奈川県鍼灸マッサージ師会令和 1 年度学術講習会【令和元年 11 月 17 日】

「VAMFIT（経絡系統治療システム）の実際 難病編」

（依頼講演：木戸主任研究員）

- ⑦ 第47回日本伝統鍼灸学会学術大会（東京大会）【令和元年11月23日（12月21日発行）】
- 「天・地・人治療（第10報）—甲状腺機能亢進症亜全摘術後の合併症における臨床例—」（口演発表：水上研究員、木戸主任研究員、光澤研究員、武藤研究員）
- ⑧ 「首の激痛 しびれを自分で楽治すNO.1療法」(MAKINO MOOK)【令和2年2月1日】
- 「ペットボトル治療 全身の治療点が集まる『首の後ろを温める』と首の痛み、脊柱管狭窄症がみごと消失」（執筆：木戸主任研究員）
- ⑨ 「東洋鍼灸医学 経絡治療」第220号 14～20頁【令和2年2月15日】
- 「脈診を初めてはじめる人のために 第21報 -六部定位脈診が困難な場合の診立て-」（論文発表：武藤研究員、木戸主任研究員、光澤研究員、水上研究員）
- (3) 基礎研究班（土曜班研究グループ）
- （研究員：川瀬明子研究員 共同研究者（東京有明医療大学）：高倉伸有教授、矢嶋裕義准教授、高山美歩講師）
- ※ 「鍼灸および経皮通電刺激が体性運動神経（VFR）に及ぼす影響」、「Double-blind 鍼のマスキング効果」、「鍼の臨床研究」を継続して研究。
- 学術大会での発表は以下の1題。
- ① 第68回全日本鍼灸学会学術大会（名古屋大会）【令和元年5月11日】
- 「eスポーツアスリートが抱える愁訴に対する鍼治療の試み-プロゲーミングチームにおける活動報告-」（大会抄録集 170頁）
- (4) 経穴認知班
- （研究員：小川一主任研究員）
- ※ 「経穴取穴及び経穴刺鍼に必要な身体操作の確立」を継続して研究、また触覚デバイスを利用した鍼の刺入トレーニングシステムのプログラム再構築を実施継続中。
- 学術大会での発表は以下の2題。
- ① 第68回全日本鍼灸学会学術大会（名古屋大会）【令和元年5月11日】
- 「フォースフィードバック装置による刺鍼訓練の検討（第3報）-陥凹感内部のエラストグラフィによる可視化-」（一般発表）
- ② 第41回東洋療法学校協会学術大会（大阪大会）【令和元年10月11日】
- 「肺経上の陥凹感内部に対するエラストグラフィによる硬さの可視化」（学生発表・指導：小川主任研究員）
- (5) 臨床治療班（附属鍼灸院研究グループ）
- （研究員：吉川信主任研究員、寺師健研究員、加藤朋子研究員、東垣貴宏研究員）
- ※ 鍼灸治療の前後の自律神経機能及び心理状態を測定し、「鍼灸刺激が心理状態に及ぼす影響について」を検討・考察した。
- 学術大会での発表、投稿等は以下の19題。
- ① 東京女子医科大学先端生命医科学研究所・第50期バイオメディカルカリキュラム【平成31年4月8日】

- 鍼灸講義（講師：吉川主任研究員）
- ② 第70回日本東洋医学会学術総会（東京）【令和元年6月29日】
「鍼灸刺激が心理状態に及ぼす影響について」（口演発表：吉川主任研究員）
 - ③ 国民のための鍼灸医療推進機構・鍼灸師卒後臨床研修医療人研修講座
【令和元年11月17日】
「膠原病」（講師：吉川主任研究員）
 - ④ 東洋医学研究所・第12回健康セミナー（日本鍼灸理療専門学校附属鍼灸院）
【令和元年12月1日】
「お灸を用いたセルフケアのススメ（セルフお灸体験セミナー）」（講師：吉川主任研究員）
 - ⑤ 東洋医学研究所・第13回健康セミナー（渋谷区文化総合センター大和田）
【令和2年1月25日】
「ツボ押しで毎日健康!!-冷えや寒さによって起こる症状を防ぐ-」（講演：吉川主任研究員）
 - ⑥ 「Metro Walker 2019 夏号」（東京メトロ）【令和元年6月】
「ツボ押しで毎日健康」（吉川主任研究員）
 - ⑦ 「Metro Walker 2019 秋号」（東京メトロ）【令和元年9月】
「ツボ押しで毎日健康」（吉川主任研究員）
 - ⑧ 「素敵なあなたへ 4月号」（協和発酵バイオ情報誌）【平成31年4月】
「疲れを取りたいとき」（吉川主任研究員）
 - ⑨ 「素敵なあなたへ 5月号」（協和発酵バイオ情報誌）【令和元年5月】
「汗をかきやすくするには」（吉川主任研究員）
 - ⑩ 「素敵なあなたへ 6月号」（協和発酵バイオ情報誌）【令和元年6月】
「便秘を解消したいとき」（吉川主任研究員）
 - ⑪ 「素敵なあなたへ 7月号」（協和発酵バイオ情報誌）【令和元年7月】
「夏の食欲不振には」（吉川主任研究員）
 - ⑫ 「素敵なあなたへ 8月号」（協和発酵バイオ情報誌）【令和元年8月】
「目の疲れを解消するには」（吉川主任研究員）
 - ⑬ 「素敵なあなたへ 9月号」（協和発酵バイオ情報誌）【令和元年9月】
「急な下痢症状には」（吉川主任研究員）
 - ⑭ 「素敵なあなたへ 10月号」（協和発酵バイオ情報誌）【令和元年10月】
「不眠を解消したいときには」（吉川主任研究員）
 - ⑮ 「素敵なあなたへ 11月号」（協和発酵バイオ情報誌）【令和元年11月】
「つらい咳が続くときには」（吉川主任研究員）
 - ⑯ 「素敵なあなたへ 12月号」（協和発酵バイオ情報誌）【令和元年12月】
「二日酔いの症状には」（吉川主任研究員）
 - ⑰ 「素敵なあなたへ 1月号」（協和発酵バイオ情報誌）【令和2年1月】
「ストレスを和らげるには」（吉川主任研究員）

- ⑱ 「素敵あなたへ 2月号」(協和発酵バイオ情報誌)【令和2年2月】
「不快な鼻づまりの症状には」(吉川主任研究員)
- ⑲ 「素敵あなたへ 3月号」(協和発酵バイオ情報誌)【令和2年3月】
「頭痛・頭重を和らげるには」(吉川主任研究員)

[柔道整復分野]

(6) 基礎医学研究グループ (柔整)

(研究員：福井孝幸研究員)

- ※ 従来からの研究テーマ「筋の筋組成や代謝(ATP、脂質等)の分析」は休止中で、今期の発表等はなし。

(7) スポーツ・柔整研究グループ

(研究員：山口竜彦主任研究員、下地秀和研究員、田中康文研究員、赤羽泰彦研究員、勝村洋介研究員、久保田英次研究員、飯野元研究員)

- ※ 「高校生スポーツ選手の身体特性と外傷との関連性の調査・研究」を継続して研究。

学術大会での発表は以下の2題。

- ① 第28回日本柔道整復接骨医学会 (東京)【令和元年11月23日】
「健常な高校サッカー選手における腹横筋収縮率と脊柱アライメントの関連性」
(ポスター発表：山口主任研究員)
- ② 第28回日本柔道整復接骨医学会 (東京)【令和元年11月24日】
「超音波画像装置を用いた中学・高校柔道選手の前距腓靭帯の描出」(口頭発表：山口主任研究員)

2. 啓発部門

(1) 臨床技術研修講座

例年同様、はり、きゅう及びあん摩マッサージ指圧の各資格保有者を対象に、技術の向上と研究者の育成を目的として、以下の通り、臨床技術研修講座を開講し、受講者に対し修了証の交付を行った。

<第42回臨床技術研修講座(計10回)>

※参加者総数：40名(前年度比▲1名)、延参加者：285名(同+10名)

第1回(平成31年4月13日) 「M-テストによる治療法」

向野 義人 先生(元福岡大学スポーツ科学部教授)

第2回(4月27日) 「頸肩腕症候群の病態の捉え方と鍼灸治療の実際」

坂井 友実 先生(東京有明医療大学大学院保健医療学研究科研究科長、教授、同大学附属鍼灸センター長)

第3回(令和元5月12日) 「深谷灸の実践と婦人科疾患」

福島 哲也 先生(灸法臨床研究会)

第4回(6月1日) 「経絡治療の概要と治療の実際」

岡田 明三 先生(経絡治療学会会長、神宮前鍼療所院長)

- 第5回（6月8日） 「びわの葉灸治療による治療の実際」
深見 哲哉 先生（深見灸院院長）
- 第6回（6月29日） 「積聚治療の概要」
小林 詔司 先生（積聚会名誉会長、太子堂鍼灸院院長）
- 第7回（7月6日） 「美容鍼の実際」
CHIHIRO 先生（カリスタ院長）
- 第8回（7月20日） 「スポーツ鍼灸」
宮本 俊和 先生（元筑波大学大学院人間総合科学研究科教授）
- 第9回（9月7日） 「九鍼による治療の実際」
石原 克己 先生（東京九鍼研究会代表、東明堂石原鍼灸院・漢方薬局代表）
- 第10回（9月14日） 「腰部脊柱管狭窄症に対する鍼灸治療-病態と対応、触診と刺鍼部位-」
粕谷 大智 先生（東京大学医学部附属病院リハビリテーション部主任）

(2) 健康セミナー

当財団の目的である東洋医学の普及啓発のため、前年度に引き続き参加費無料の健康セミナーを計3回開催した。

第1回（通算第11回）

（令和元年7月13日（土）、渋谷区文化総合センター大和田2階学習室）

「正しい姿勢で腰痛を防ぐ—腰痛の原因は姿勢にあった?!—」

講師：小山 浩司 先生（東京有明医療大学保健医療学部准教授）

参加者 35名

第2回（同第12回、番外編）

（令和元年12月1日（日）、日本鍼灸理療専門学校附属鍼灸院）

「お灸を用いたセルフケアのススメ（セルフお灸体験セミナー）」

講師：吉川 信 先生（日本鍼灸理療専門学校附属鍼灸院院長、当財団主任研究員）

参加者 16名

第3回（同第13回）

（令和2年1月25日（土）、渋谷区文化総合センター大和田2階学習室）

「ツボ押しで毎日健康!!—冷えや寒さによって起こる症状を防ぐ—」

講師：吉川 信 先生（日本鍼灸理療専門学校附属鍼灸院院長、当財団主任研究員）

参加者 30名

V 収益事業（臨床部門）

附属クリニックは、地域住民への医療サービス提供のため、昭和 50 年 1 月に開設し、その名のとおり、西洋医学と東洋医学の融合を図り、内科においては病気・疾患の治療はもちろんのこと、漢方薬を通じた病気の予防、病後の健康回復、慢性疾患の改善等の治療を行っている。また、整形外科では腰痛やひざ・足の痛み、捻挫・骨折といった外傷以外に、スポーツ整形等の専門外来がある。更に平成 26 年 4 月からは自由診療の自然医療部門が加わり、様々な症状の患者様に対応している。

令和元年度のクリニックの運営状況は以下のとおり。

来院患者数は各診療科とも減少傾向にあったが、今年に入ってから新型コロナウイルス感染症拡大に伴う外出自粛の影響も加わり、前年度比 18.7%減と 7 期連続での減少となった。また鍼灸部門においては、担当者が 12 月より休職（3 月末で退職）したことから前年度比 37.2%の大幅な減少となった。それに伴い診療報酬は、保険診療部門で 163 万円（12.4%）、鍼灸部門では 55 万円（36.4%）減少し、医療事業収入全体では前年度比 242 万円（8.9%）の減少となった。

一方で支出については、レントゲンシステム用および自然医療部門のパソコンや受付のレセコンのソフトを Windows10 へのバージョンアップのため入替を行ったことで費用が増加（入替に伴う固定資産除却損を含む）したほか、前期に入れ替えたレントゲンシステムの減価償却費の増加により前年比 203 万円増加し、収支額は前年度比 445 万円赤字が拡大して 663 万円のマイナスとなった。

パソコンの入替等、今年度限りの特殊要因はあるものの、今後についても、患者数の動向如何で収益状況が不透明であり、設備の老朽化や治療用機器の修理、入替需要を勘案すれば、引き続き厳しい環境にあると思われる。